

# 2007年度春学期「学生による授業評価」アンケート報告

## 学生による授業評価

FD部門・授業評価部門委員 谷本 奈穂

### 1. 実施状況

2007年6月11日（月）から6月23日（土）にかけて、2007年度春学期の「学生による授業評価」アンケートをおこなった。対象は、専任教育職員と非常勤講師が担当するデタイムコース及びフレックスコースの平成18年度秋学期開講の講義科目（教養科目・保健体育科目・専門教育科目）、外国語科目（日本語を含む）及び体育実技科目で、複数担任科目（オムニバス・リレー授業）は除いている。調査方法はアンケート用紙を配布し、記入後すぐに回収をおこなう形のものである。

表1は「実施状況の結果」を示している。調査クラスの割合を示す「実施率」は91.7%であった。2006年秋学期の実施率が89.8%であるので、前回の実施に比較すると若干増加している。「回答率」はアンケートの回答数を各科目の登録人数で割った数字であり、今回は48.9%であった。これも前回は41.1%であったことから増加していることが分かる。

表2は「学部別の実施率と回答率」である。新たな

4学部、政策創造学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部が加わっている。

図1は、「実施率と回答率の変化」を示したグラフである。これを見てわかるように、実施率は今回ややあがったものの、全体としてはほぼ横ばいの傾向といえる。一方で、回答率に関しては、例年春学期の方が秋学期に比べて高いため、過去における春学期のみの回答率と今回の回答率を比較するとこれもまたほぼ横ばいであり、例年と同じくらいであるといえよう。春学期に比べて、秋学期は履修登録したが、春学期で単位を修得したために受講しなかった学生が多いことや、授業を欠席する学生が多くなっていることが予測される。秋学期の回答率をあげていくことが、これから課題となるだろう。

### 2. 全体的傾向

表1から分かるように、全学の3,446クラス、延べ270,221名を対象にしたアンケートの結果が得られた。

表1 アンケート実施状況

			講義	外国語	体育実技	全体
2007年度春学期 開講科目	対 象	科目(クラス)数	1,691	1,593	162	3,446
		学生数	212,553	51,640	6,028	270,221
	実 施	科目(クラス)数	1,455	1,551	155	3,161
		回答者数	84,245	43,209	4,672	132,126
	実施率		86.0%	97.4%	95.7%	91.7%
	2006年秋学期比		3.6%	0.6%	-2.1%	1.9%
	2006年春学期比		-0.1%	-0.5%	2.2%	-0.2%
	回答率		39.6%	83.7%	77.5%	48.9%
	2006年秋学期比		8.1%	8.7%	9.9%	7.8%
	2006年春学期比		1.3%	1.2%	7.2%	1.5%

注) 「学生数」「回答者数」は延べ人数。通年科目も含む。

表2 学部別アンケート実施率・回答率

	法	文	経	商	社	政策創造	総合情報	工	システム理工	環境都市工	化学生命工	フレックス	保健体育	計
実施率	91.1%	94.6%	93.7%	94.8%	93.6%	96.1%	81.2%	91.9%	81.8%	62.5%	75.0%	88.4%	95.8%	91.7%
2006年 秋学期比	1.8%	6.8%	-0.1%	0.5%	-2.4%		-1.5%	1.6%				5%	-0.8%	1.9%
2006年 春学期比	0.7%	1.5%	0.2%	-0.3%	0.7%		-5%	-1.5%				0.5%	2.7%	-0.2%
回答率	41.4%	58.6%	45.9%	44.5%	48%	70.4%	38.8%	52.6%	64.7%	53.8%	65.8%	44.3%	75.0%	48.9%
2006年 秋学期比	6.1%	10.1%	5%	7.2%	8.4%		-3%	11.6%				5.2%	9.4%	7.8%
2006年 春学期比	0.3%	3%	0%	1%	4.2%		-5.7%	1%				0.1%	7%	1.5%

共通質問項目数は12個あり、「⑤強くそう思う、④そう思う、③どちらとも言えない、②そう思わない、①全くそう思わない」の5つの段階で評価する。質問ごとにその項目に属する全クラスの個々の評定平均値を、A+ (5.0～4.5)、A (4.5～4.0)、B (4.0～3.5)、C (3.5～3.0)、C- (3.0～2.5)、D (2.5～2.0)、E (2.0～1.5)、E- (1.5～1.0) としている。

図2は、「質問項目のクラスごとの評価平均値の分布(割合)」を示したものである。評価平均値の評価の高い項目が上に、評価の低い項目が下へくるように質問項目を並び替えた。これをもとにして、アンケート結果を見ていきたい。一番上位にきたのは、前回・前々回と同じ「10. あなたはこの授業によく出席しましたか」である。約94.9%が4.0点以上のA評価であり、このアンケートの回答者の大部分がよく出席をしている学生であることがわかる。

次に評価平均の高い「3. 担任者の解説の声は、はっきりと聞き取れましたか」も71.2%がA以上の評価であり前回の調査と同様に高い評価を得ている。評価の平均点と同じであった「1. 授業内容は、講義要項、授業計画等で示したものに沿った内容でしたか」も、Aの評価が66.1%あり多くの授業が計画に沿った形で進められていることが分かる。

また次の「4. 学生の理解を深めよう、能力を高め

ようとの熱意・努力が感じられましたか」についてはAが約60.2%であり、「7. 担任者は、学生からの質問に的確に対応しましたか」はAが54.9%となっている。「7. 質問」については、アンケート項目に「該当しない場合は⑥を記入」という文言が入っているものの、授業規模によっては難しい場合もあるのですべての授業に適応する質問として適切かどうか疑問が残る。

以下、「2,5,8,9,12」の項目に関しては同じ平均であるが、この中でも「2. 授業内容について、わかりやすくする工夫がなされていましたか」について、3.0点以下の低い評価(C-以下)が比較的多くなっており4.5%ある。現状でも各教員は鋭意努力しているが、まだ「わかりやすさへの工夫」は求められているようだ。

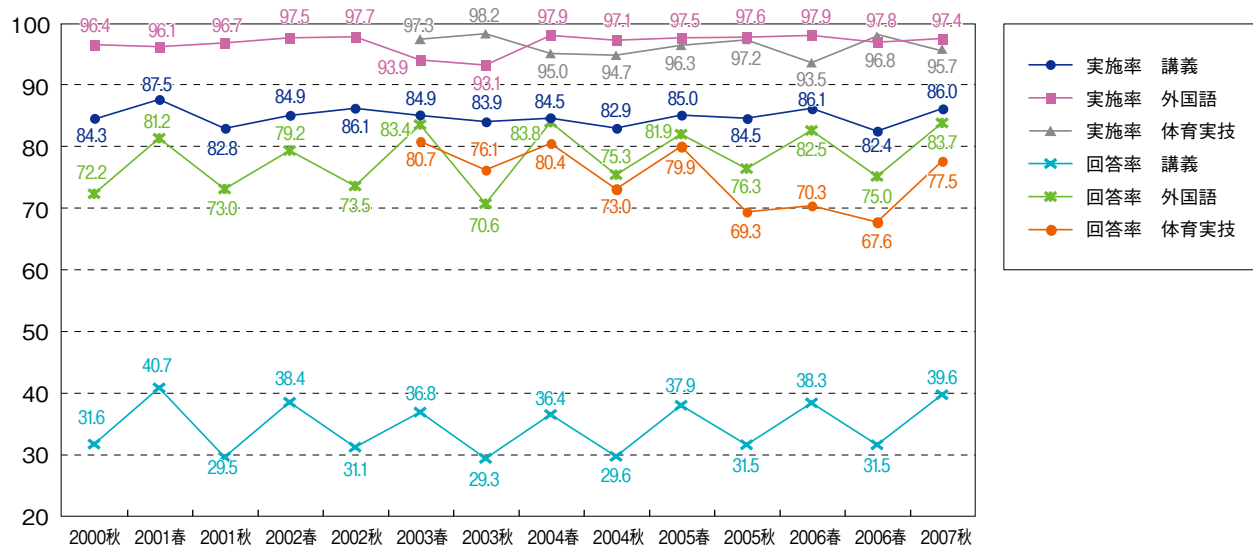
最も学生の評価が低かったのは、「11. あなたは予習・復習するなど、この授業に意欲的に取り組みましたか」であった。4点以上を示すA評価が21%となり「10. 出席」に比べてかなりの落ち込みをしめしている。学生に対して出席を促すだけでなく予習や復習のような学習を促すことも必要となっている。

### 3. 学年別の授業満足度

表3は「授業の満足度に対する学年別の評価分布」である。これは項目の中でも質問項目の中でも特に重

図1 授業評価アンケート実施率・回答率の変化

	2000秋	2001春	2001秋	2002春	2002秋	2003春	2003秋	2004春	2004秋	2005春	2005秋	2006春	2006秋	2007春
実施率 講義	84.3	87.5	82.8	84.9	86.1	84.9	83.9	84.5	82.9	85.0	84.5	86.1	82.4	86.0
実施率 外国語	96.4	96.1	96.7	97.5	97.7	93.9	93.1	97.9	97.1	97.5	97.6	97.9	96.8	97.4
実施率 体育実技	/	/	/	/	/	97.3	98.2	95.0	94.7	96.3	97.2	93.5	97.8	95.7
回答率 講義	31.6	40.7	29.5	38.4	31.1	36.8	29.3	36.4	29.6	37.9	31.5	38.3	31.5	39.6
回答率 外国語	72.2	81.2	73.0	79.2	73.5	83.4	70.6	83.8	75.3	81.9	76.3	82.5	75.0	83.7
回答率 体育実技	/	/	/	/	/	80.7	76.1	80.4	73.0	79.9	69.3	70.3	67.6	77.5



要と考えられる「8. この授業を受講して満足しましたか」に対する5段階評価の回答の割合を、それぞれ学部・学年別にまとめたものである。これには保健体育講義科目を含み、外国語と体育実技については学年別だけを示している。4年以上には、上位学年と大学院生、科目履修生などの回答が含まれる。1・2年生は教養科目の授業が多く、3年生以上は専門科目や免許・資格関連の科目が多いと思われるが、科目によって区別をしたデータが出されていないため、この結果はあくまで学年別の全体的な傾向を示すものである。

学部・学年によらず④の評価をした学生の割合が最も高い。②と①の悪い評価をした学生は、多くの学部で1・2年生で多く、上位学年にいくほど少なくなるという傾向も多くの学部で見られる。学年によって授業の満足度が異なるのは、さまざまな理由が考えられる。例えば、教養科目と専門科目のような科目特性の違い、受講人数による差などが考えられるだろう。しかし、それだけではなく、学生サイドの大学の授業に対する認識の違いや期待度の違いが、下位年次生と高

位年次生の満足度の違いを生み出しているとも考えられる。すなわち、それまで自らが受講してきた授業（高校の授業など）と大学での授業の違いに戸惑ったり、あるいは大学の授業をもっと違うものと想像して授業に臨んだりしている可能性があるということだ。よって、各教員による授業改善の努力はもちろん必要だが、全学的に下位学年（できれば1回生）のうちに大学の授業に関するガイダンスを行い、早く大学の授業になれていけるよう配慮する必要もあるかもしれない。

図2：各項目のクラスごとの評価平均値の分布（割合）

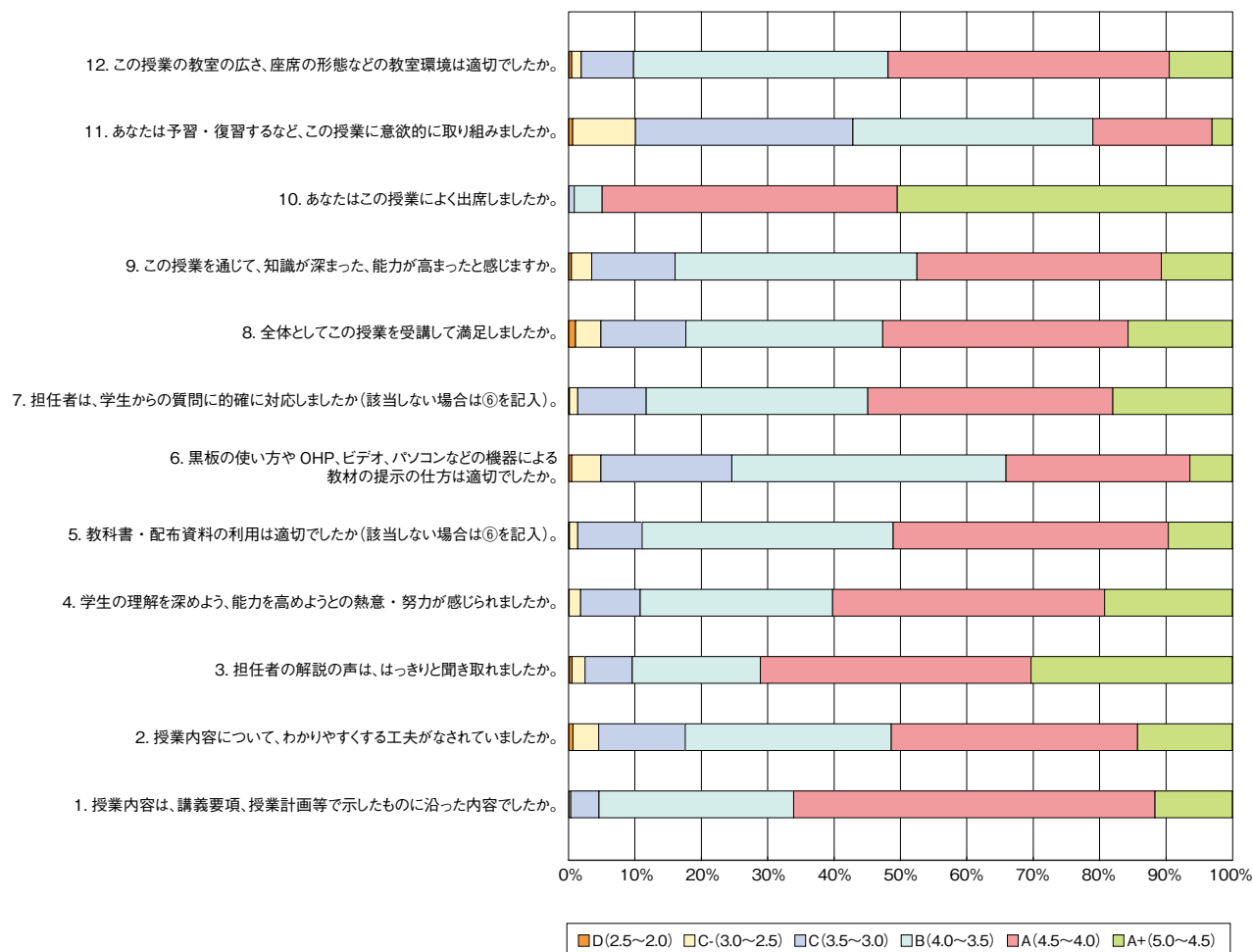


表3：授業の満足度に対する学年別の評価分布

評価	法学部				文学部				経済学部				商学部			
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上
5	24.7%	25.8%	28.9%	31.6%	27.2%	29.6%	28.4%	37.8%	22.8%	28.3%	27.0%	33.1%	25.6%	30.4%	31.4%	36.6%
4	37.9%	39.5%	40.9%	42.7%	39.7%	41.0%	41.2%	43.0%	38.1%	41.0%	42.4%	42.4%	37.6%	38.9%	41.1%	42.0%
3	25.5%	23.3%	22.1%	19.1%	23.0%	21.2%	22.7%	14.3%	26.9%	21.5%	22.0%	18.6%	25.4%	22.4%	20.8%	16.4%
2	7.5%	7.3%	6.0%	4.5%	7.5%	5.7%	5.4%	3.3%	7.7%	6.3%	5.8%	4.8%	8.2%	5.8%	4.5%	3.5%
1	4.4%	4.1%	2.1%	2.1%	2.6%	2.5%	2.2%	1.6%	4.5%	2.9%	2.8%	1.1%	3.2%	2.5%	2.2%	1.5%
評価	社会学部				総合情報				政策創造学部				工学部			
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上
5	24.8%	26.9%	29.6%	37.7%	24.0%	26.9%	21.7%	30.0%	23.3%					19.3%	20.0%	26.6%
4	38.3%	41.4%	42.6%	43.4%	38.8%	40.3%	39.6%	39.5%	37.0%					37.9%	41.9%	43.3%
3	24.7%	22.5%	20.9%	13.9%	26.0%	23.2%	26.4%	21.1%	24.9%					30.0%	29.1%	23.4%
2	8.5%	6.9%	5.2%	3.9%	7.2%	6.1%	8.5%	7.2%	10.1%					7.9%	6.0%	4.8%
1	3.7%	2.3%	1.7%	1.1%	4.0%	3.5%	3.8%	2.2%	4.7%					4.9%	3.0%	1.9%
評価	システム理工学部				環境都市工学部				化学生命工学部				外国語			
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上
5	22.0%				18.7%				19.7%				25.4%	27.3%	34.5%	44.5%
4	40.6%				35.6%				38.9%				41.2%	39.9%	39.9%	35.1%
3	24.4%				29.7%				27.0%				23.4%	22.6%	18.8%	15.0%
2	7.8%				9.9%				9.4%				6.9%	6.5%	4.6%	4.7%
1	5.2%				6.1%				5.0%				3.1%	3.7%	2.2%	0.7%
評価	体育実技															
	1年	2年	3年	4年以上												
5	44.8%	51.0%	49.6%	43.9%												
4	37.0%	35.0%	27.1%	29.3%												
3	14.6%	11.2%	20.2%	24.4%												
2	2.7%	2.1%	1.6%	2.4%												
1	0.9%	0.7%	1.5%	0.0%												

※1 外国語および体育実技は、学年別のみ。  
 ※2 学生の所属が大学院生・不明などは除く。  
 ※3 政策創造・工学部・理工3学部で在籍しない学年のデータは削除した。

(総合情報学部准教授)

